

令和 02 年度 事務事業評価書

新継区分	継続	事務事業名称	013 野犬対策事業				
担当部	020000 市民健康部		課・室	020801 市民生活環境課	所属長名	金城 裕	

(1) 基本情報

基本目標		004 生命(いのち)のつながるまち(環境)	施 策	003 良好な住環境の形成
事務事業期間		平成21年度 ～ 令和12年度	会計種別	01 一般会計
経費の性質		2 行政事務経費（準義務的	実施計画対象	1:対象
事業概要	実施方法	直接実施	実施根拠 (法令や条例等)	・狂犬病予防法・糸満市飼い犬条例
	目 的	・畜犬の管理や予防接種の実施、徘徊犬の捕獲を行うことにより、狂犬病の蔓延を防止するとともに市民の安心安全をはかる。		
	対 象	・市民、犬を飼う市民（世帯）		
	活動内容	・市内の飼い犬の登録業務や狂犬病予防接種の集合接種、動物病院での個別接種を実施する。また、咬傷被害防止や衛生環境保全の為、パトロールを行い徘徊犬の捕獲や、犬猫他小動物の屍骸回収を行う。		
	意図（成果）	・狂犬病の蔓延を防止するとともに、野犬による人畜への被害を防止する。また、路上等で野良猫や小動物の死骸が散乱し不衛生な環境になることを防ぐ。市民には犬の適正な飼養の啓発をはかり、安全で清潔な生活環境を実現する。		

(2) コスト及び成果

	単位	H31年度決算	R02年度予算	R03年度予算	R04年度予算	R05年度予算
事業費	千円	3,312	3,652	3,736	3,736	0
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0
	その他	千円	1,323	1,192	0	0
	一般財源	千円	1,989	2,460	3,736	3,736

この事務事業の業務量を数値化したもの・・・活動指標			この事務事業の成果を数値化したもの・・・成果指標		
活動指標名	単位	左記の活動指標とした理由	成果指標名	単位	左記の成果指標とした理由
野犬パトロール(年間活動日数)	日	本事業の中心的な活動の一部であり、継続的に必要である。	予防接種率	%	狂犬病予防という事業目的を達する為の直接的な指標である。
狂犬病予防接種(集合)の実施	回	市民の利便性をあらわす指標である。	犬の登録	件	畜犬の未登録が多いとみられる状況の改善をみる指標である。。

活動指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
野犬パトロール(年間活動日数)	日		計画値	240	240	240	0	0
			実績値	0	236	0	0	0
	回		計画値	5	5	5	0	0
			実績値	0	0	0	0	0
狂犬病予防接種(集合)の実施			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

成果指標	指標名	単位	区分	H31年度	R02年度	R03年度	R04年度	R05年度
予防接種率	%		計画値	51	52	52	0	0
			実績値	0	33	0	0	0
	件		計画値	250	250	250	0	0
			実績値	0	212	0	0	0
犬の登録			計画値	0	0	0	0	0
			実績値	0	0	0	0	0

妥当性	①事務事業を実施する妥当性	● 目的は明確で上位の施策に結びついている ○ 目的は上位の施策に結びついていない ○ 内部管理経費のため、上位の施策に結びつかない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・安心安全で良好な住環境を形成するという総合計画の目的に沿った、事業である。 <tr><td>②行政が関与する妥当性</td><td> ○ 法令及び条例によりサービスが義務付けられている ● 国、県、市の協調によるもの ○ 民間ではできない、または民間では実施していない ○ 民間に同様・類似のサービスがあるが、質や量等が不十分なため、補完するもの ○ 民間に同様・類似のサービスが存在する 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・狂犬病予防法に定められており、第一号法定受託事務である。 </td></tr>	②行政が関与する妥当性	○ 法令及び条例によりサービスが義務付けられている ● 国、県、市の協調によるもの ○ 民間ではできない、または民間では実施していない ○ 民間に同様・類似のサービスがあるが、質や量等が不十分なため、補完するもの ○ 民間に同様・類似のサービスが存在する 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・狂犬病予防法に定められており、第一号法定受託事務である。
	②行政が関与する妥当性	○ 法令及び条例によりサービスが義務付けられている ● 国、県、市の協調によるもの ○ 民間ではできない、または民間では実施していない ○ 民間に同様・類似のサービスがあるが、質や量等が不十分なため、補完するもの ○ 民間に同様・類似のサービスが存在する 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・狂犬病予防法に定められており、第一号法定受託事務である。		

必要性	③市民ニーズ	○ 市民のニーズの有無に関わらず実施する必要がある ● 市民ニーズが増加傾向にある ○ 市民ニーズが現状維持の傾向にある ○ 市民ニーズが減少傾向にある ○ 市民ニーズを把握していない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・近年のペットブームにより、犬を飼う市民が増えている、また市内外からの犬の遺棄が後を絶たず、野犬による被害苦情が増加している。近年は三和地域においては数カ月に渡って十数頭の家畜被害が発生し、捕獲要請が相次いでいる状況である。 <tr><td>④現時点での優先性や緊急性</td><td> ○ 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある ● 日常的な安全、生活を確保するために実施する必要がある ○ 公共サービスの平均的水準を確保するために実施する必要がある ○ 現時点での優先性や緊急性は低いものの、市の将来のために実施した方がよい ○ 現時点では必ずしも実施しなくてもよい 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・野犬、野良猫の増加により、糞尿被害や路上での轢死に関する相談や苦情が増加しており、安全で清潔な生活環境を実現する為に必要な事業である。 </td></tr>	④現時点での優先性や緊急性	○ 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある ● 日常的な安全、生活を確保するために実施する必要がある ○ 公共サービスの平均的水準を確保するために実施する必要がある ○ 現時点での優先性や緊急性は低いものの、市の将来のために実施した方がよい ○ 現時点では必ずしも実施しなくてもよい 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・野犬、野良猫の増加により、糞尿被害や路上での轢死に関する相談や苦情が増加しており、安全で清潔な生活環境を実現する為に必要な事業である。
	④現時点での優先性や緊急性	○ 緊急事態への対応、最重要施策など最優先して実施する必要がある ● 日常的な安全、生活を確保するために実施する必要がある ○ 公共サービスの平均的水準を確保するために実施する必要がある ○ 現時点での優先性や緊急性は低いものの、市の将来のために実施した方がよい ○ 現時点では必ずしも実施しなくてもよい 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・野犬、野良猫の増加により、糞尿被害や路上での轢死に関する相談や苦情が増加しており、安全で清潔な生活環境を実現する為に必要な事業である。		

公平性	⑤受益者負担は適切か	○ 広く市民を対象としていることから適切である ● 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担があり適切である ○ 事務事業の対象が特定されているが、受益者には応分の負担となっていないため、見直しの余地がある ○ 受益と負担の適正化を求める事業ではない（社会福祉等を目的とする事業など） ○ 公平性の評価になじまない（内部管理業務など） 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・集合予防接種料金や登録手数料は他市町村と同等であり適切である。 ・野犬捕獲や屍骸回収は安全で清潔な住環境を確保する目的であり公衆衛生の視点で検討すべき事項である。
-----	------------	--

効率性	⑥事業の成果を低下させずにコスト削減を図っているか否か	○ かなり削減できている ○ ある程度削減できている ● あまり削減できない 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・本事業の内容は目的達成の為に最小限度の事項に留めており、さらなる削減は困難である。 <tr><td></td><td> ○ 削減できない ○ 効率性の評価になじまない </td></tr>		○ 削減できない ○ 効率性の評価になじまない
		○ 削減できない ○ 効率性の評価になじまない		

有効性	⑦成果指標の目標値(予測値)に対する達成度	○ 目標を上回る ○ 目標を概ね達成している ● 目標をやや下回る 説明欄 上記の理由を説明欄にお書きください。 ・市民に対し飼い犬に関するマナーを啓発し、予防接種率や登録率の向上をはかる必要がある。 <tr><td></td><td> ○ 目標を下回る ○ 成果指標を設定していない </td></tr>		○ 目標を下回る ○ 成果指標を設定していない
		○ 目標を下回る ○ 成果指標を設定していない		

(4) 評価の総括

所属長所見 1. 妥当性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 2. 必要性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 3. 公平性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 4. 効率性 ● 適切 ○ 見直す余地あり 5. 有効性 ○ 適切 ● 見直す余地あり	総合評価 ・全て適切でA評価 A 現状どおり事業を進めることが妥当 ・適切3～4でB評価 B 事業内容や事業手法に改善を行う余地あり ・適切1～2でC評価 C 事業縮小または内容や手法に大幅な見直しが必要 ・全て見直しでD評価 D 事業の廃止や休止など、事業のあり方について検討する必要あり B
所属長所見 □ 拡大・充実 ■ 現状維持 □ 改善 □ 民間委託 □ 統合 □ 縮小 □ 休止 □ 廃止 □ 完了	改革改善案（総合評価でA評価の場合は記載不要） 狂犬病予防接種率が低いと、接種向上の広報や飼い犬の転出・死亡届の提出を呼びかけ接種率の向上を図っていくように促していきたい。